

フィジカルインターネット実現に向けた実行宣言

私たちは、製・配・販の連携による
サプライチェーン全体の最適化を実現するために、
フィジカルインターネット実現に向けたアクションプランに則り、
2025 年度末までに以下内容を実行します。

1. 商流・物流におけるコード体系標準化

・ 物流商品マスタ PI 基本項目の入力徹底と共有

フィジカルインターネット実現に向けて、物流現場のオペレーションを効率化するために必要な商品情報（PI 基本項目）について、加工食品メーカーであればジャパン・インフォレックス社の DB に、日用品メーカーであればプラネット社の DB へ、正確な情報を入力する。またその情報を GS1 Japan が運営する GJDB（産業横断レジストリー）を活用し、消費材サプライチェーンの製・配・販三層で共有する。

・ 物流標準事業所マスタ

拠点を一意に識別するためのコードの標準化とそのデータベースを構築するために、運用・メンテナンス等の詳細や利用者への提供方法等、引き続き議論していく。

2. 物流資材の標準化

・ スマートボックスの普及実現に向けて

RFID 付折り畳みコンテナ（スマートボックス）の規格化とスマートボックスのレンタル化による共同利用を実現するために、詳細について引き続き議論を進める。

3. 取引透明化に向けた商慣習の見直し

・ 基準となる物流サービスの水準の明確化

「消費財サプライチェーンにおける物流サービスの明確化およびメニュープライシング導入ガイドライン」の内容に基づき、まずは自社の物流サービスの水準を明確化し、取引先に順次提示する。

4. データ共有による物流効率化

・ 納品データ電子化による、ペーパーレス、荷受け作業の効率化の推進

納品データの電子化によるペーパーレス、電子化データの事前共有（ASN）による荷受け作業の効率化を実現するために、取りまとめた納品データ共有の際のルールに則り、業界 EDI や SIP 納品伝票エコシステムを活用していく。